

ベーシック・エンカウンター・グループの「コ・ファシリテーター体験」に関する事例研究的検討

福田, 麗
九州大学大学院人間環境学府

野島, 一彦
九州大学大学院人間環境学研究院

<https://doi.org/10.15017/878>

出版情報：九州大学心理学研究. 3, pp.167-174, 2002-03-31. 九州大学大学院人間環境学研究院
バージョン：
権利関係：

ベーシック・エンカウンター・グループの 「コ・ファシリテーター体験」に関する事例研究的検討

福田 麗 九州大学大学院人間環境学府
野島 一彦 九州大学大学院人間環境学研究院

A case study on “Co-Facilitator experience” of a basic encounter group

Urara Fukuda (*Graduate school of Human-Environment Studies, Kyushu University*)

Kazuhiko Nojima (*Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University*)

This paper is a case study on “Co-Facilitator experience” of a basic encounter group. A facilitator and a co-facilitator facilitated a basic encounter group (2 nights 3 days, 8 sessions, 19 hours, 6 members). We described the group structure and the group process of this group. And we founded that the co-facilitator experienced the consciousness of “the facilitator consciousness”, the practice of “the facilitation action”, and “the observation learning” of the facilitator action. Then we concluded that “Co-Facilitator Method” is useful as a facilitator training for basic encounter group.

Keywords: “Co-Facilitator experience”, facilitator training, basic encounter group

I はじめに

ベーシック・エンカウンター・グループのファシリテーター養成の方法としては、①文献による学習、②観察による学習、③シミュレーションによる学習、④グループ体験による学習、⑤スーパービジョンによる学習、⑥事例検討による学習、がある(野島, 1990)。この中の④グループ体験による学習を細かくみると、メンバー体験、訓練グループの体験、コ・ファシリテーター体験がある。「コ・ファシリテーター体験」による養成は、「コ・ファシリテーター方式」(初めてファシリテーターをやる人は、ベテランのファシリテーターとコンビを組む)と呼ばれる(野島, 1985)。わが国では、その実践は1970年代初期からこれまで結構行われてきている。そして経験的には、この方法はファシリテーター養成に有効であるということが言われている。しかし、「コ・ファシリテーター体験」を事例研究的に検討した文献はないようである。

そこで本稿では、(一人のファシリテーター候補者の初めての)「コ・ファシリテーター体験」の事例を提示し、この方法ではコ・ファシリテーターはどのような体験をしているのか、この方法はファシリテーター養成に有効なのか、について検討を行う。

ちなみに近年のエンカウンター・グループのファシリテーター養成(訓練)をめぐる文献としては、野島(2001)、本山(2001)がある。

II グループ構成

1. エンカウンター・グループの位置付け

エンカウンター・グループは、ある年の夏に2泊3日(8セッション, 19時間)で某カウンセラー養成機関の研修として行われた。メンバーは自発参加である。2グループが同時進行したが、そのうちの1つがここで報告するグループである。

2. グループ編成

このグループの6名のメンバーと2名のファシリテーターは次のとおりである。

A子(女性, 20代前半, 介護福祉士, 未婚, グループ経験なし)/B子(女性, 50代前半, 大学保健室の看護婦, 既婚, グループ経験なし)/C子(女性, 50代前半, 主婦, 既婚, グループ経験なし)/D男(男性, 50代前半, 公務員, 既婚, グループ経験なし)/E子(女性, 40代前半, 中学校教諭, 既婚, グループ経験3回あり)/F子(女性, 30代前半, 養護教諭, 未婚, グループ経験1回あり)

ファシリテーターは野島(男性, 50代前半, 大学教員, 既婚, エンカウンター・グループのファシリテーター体験多数回), コ・ファシリテーターは福田(女性, 20代後半, 大学院生, 既婚, エンカウンター・グループのメンバー体験7回)。

3. スケジュール

1日目=15:30-18:00は第1セッション, 19:30-

22:00は第2セッション。

2日目=9:00-11:30は第3セッション, 13:00-15:00は第4セッション, 15:30-18:00は第5セッション, 19:30-22:00は第6セッション。

3日目=9:00-11:30は第7セッション, 13:00-15:00は第8セッション。

4. 場所

場所としてはシティ・ホテルが用いられた。セッション・ルームは, 10畳の和室。窓からの陽射しが強いいため, 窓はカーテンと障子で二重に閉ざされた。

5. リサーチ

参加者はグループ経験前後の「参加者カード」, 毎セッション後の「セッション・アンケート」への記入が求められた。

III 経 過

1. 参加前の気持

「参加者カード」に記入されたメンバーの7段階評定のグループへの参加意欲は平均=5.60 (SD=0.80), 期待は平均=5.60 (SD=1.02)である。

自由記述欄には次のように書かれている。また参加意欲と期待も記す。A子:いろいろな考え方をもっている人がいる, ということをもつて経験したい。又, 自分とは違う考え方の人を, 上手に受け入れられるようになるための勉強がしたいと思った。自分を追い詰めてしまいそうな, 自分が否定されてしまいそうな不安が大きくある。参加意欲と期待は無記入。/B子:はじめての経験なので, どのような進捗でどのような内容になっていくのか不安ですが, ある程度期待もあります。この会で, 自分なりに何かつかめて, 自分を発見できればいいなと思っております。このたび参加された方々との関係が, 今後も続けていけたら良いと思っております。参加意欲は6, 期待は5。/C子:どんな事をするのかも知らないのに, 自分の事や娘の事(摂食障害)についての話を聞いてもらい, 良いアドバイスをお願いしたいし, 自分ももう一度, 考え方を換えられると良いと思う。参加意欲は5, 期待は6。/D男:やっと暇が取れるようになって何かないかなと思ってた時, 妻から「父さんもやってみたら, 自分がよく分かるよ」と勧められた。人がどう思い, どう考えているのか, 研修も色々受けてきたが, 人を知るといふか, 自分の心を知ることができれば幸いと思う。今の今まで, ばたばたと仕事をしていて, 何の考えもないまま出席します。参加意欲は5, 期待は6。/E子:以前エンカウンター・グループに参加した時, 一緒に参加していた方が, 野島先生のエンカウンター・グループに参加して, とても良かったとお話さ

れていたもので, 期待をもって参加しようと思っ
ています。期待と同時に, 自分への不安もあります。どんな自分に気づくかという期待と不安。また, いろんな出会いに期待しています。よろしくお願ひします。参加意欲と期待は共に7。/F子:今まで知らない人の中で, 自分の考えていること, 思いを出していくということが, 経験として少なく, 素直に気持が出来るようになればいいなと思って参加しました。うまく自分の思いを言葉にできるか少し心配です。いつも苦手と思っていることなので…。それから, 今あまり体調が良くないので, それがこの研修にどう影響するのか気になります。参加意欲は5, 期待は4。

コ・ファシリテーターは参加意欲と期待は共に5, ファシリテーターは共に6である。自由記述欄には次のように書かれている。コ・ファシリテーター:緊張, 固くなっている。1つは, ベテランのファシリテーターの先生と同じ立場でやっていくことに対して。実際お会いすると, 自分と一緒に前に立ってていいのだろうかと思ってしまう。もう1つには, メンバーの方の参加動機を聞いて少し大丈夫かなと, それを引き受ける立場として, 不安に思った。/ファシリテーター:福田さんを育てることが1つのねらい。メンバー6名とファシリテーター2名の計8名で2泊3日なので, ゆったりといろいろ話ができそうに思う。摂食障害の娘をもつというメンバーがいるが, どのような動きになるのか少し気がかり。安全感の高いグループになるようにと思う。自分のコンディションはまあまあ。メンバー6名というスモール・グループは私にとってはめずらしいサイズ。

2. グループ・プロセス

●第1セッション(1日目の午後)

①ファシリテーターからのオリエンテーションと自己紹介が行われる。

②コ・ファシリテーターの自己紹介が行われる。

③ファシリテーターの促しにD男が生い立ちを含む長い自己紹介をする。

④D男が次々とメンバーを指名し, 全く休むことなく一通り自己紹介(自分のこと, 家族のこと等)が行われる。

[メンバーの感想] 魅力度=5.33 (SD=0.75)

魅力度とは, 「セッション・アンケート」に記入された7段階評定のセッションへの魅力度である。メンバーのものは平均とSD(カッコ内)である。

参加者の感想は多岐にわたるが, ここではファシリテーター, コ・ファシリテーターに関するものをひろう。またセッションへの魅力度も記述する。

A子:もう少しいろいろアドバイスしていただけたらと思います。今はまだ, 様子を見られているのでし

が。魅力度は6。／B子：話がとてもスムーズに流れていた。しかし、気づかされる場所があり、自分なりにドキッとした。このグループで話をしたことが、他へもれないようにしてほしい。かなりプライベートな部分が出てきているので。魅力度は5。／C子：鋭い指摘でした。これからは頭を切り替えないとダメだと思います。ありがとうございます。魅力度は6。／D男：黙って相づちを打ち、じれったいほど言葉を控えておられ、要点を突いた言葉で流れが変わった。魅力度は6。／E子：もう…何もありません。魅力度は5。／F子：話を一緒になって聴いて下さっているという安心感があつた。魅力度は4。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度=5

グループの動きは、みんな落ち着かないのか、指名して最初から次々に話が進む。しかし、しっかり皆ついていっている。支えあう雰囲気がある。自分は、最初は展開の早さについていけない感もあつたが、みんなの動きを見てると、自然に入っていた。発言はしなかったが、ついてはいつている。ファシリテーターのC子への一言は、私も感じていたこと。しかし、それをファシリテーターはうまく伝えられたなど、なるほどと思った。満足した点は、メンバー自身が支える力があることを実感できたこと。気がかりなことは、やっぱり展開が早すぎるのか。これからどうなっていくのだろうか。今後、沈黙になったら、皆あせるのではないか。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度=5

自分は落ち着いている。ファシリテーターとしては、オリエンテーションと自己紹介を行った。C子に対し、気になったことをフィードバックした。満足した点は、それぞれによく話をしてくれていること。気がかりは、E子とコ・ファシリテーターが自己紹介以外に発言がないこと。

●第2セッション（1日目の夜）

①D男を中心に世間話が続く。

②ファシリテーターが「雑談についていけない」と発言して介入し、その後しばらく沈黙となる。

③やがてA子の「職場での人間関係」の話を中心に進む。

〔メンバーの感想〕 魅力度=5.67 (SD=0.75)

A子：いろいろ答えて下さったので参考になりました。魅力度は7。／B子：無記入。魅力度は5。／C子：ダラダラしゃべっていたのが恥ずかしい（私自身が気がついた）。魅力度は5。／D男：世間話での区切りでの適切な介入であった。魅力度は6。／E子：いつまでこの世間話が続くのかなと思っていたところ、ファシリテーターが入って下さったので良かったと思いました。魅力度は5。／F子：話の中でのまとめられたアドバイスが話

を分かりやすくさせていただいた気がした。魅力度は6。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度=6

最初の世間話は沈黙を経験していない中での落ち着きのなさ、最初に急に深く入ったことへの防衛か。途中からは、みんな充実した時間になったのでは。自分は、最初の雑談の時は、今後どうなるのかと不安に思った。後半も、やはり私にとってはテンポが早い。言いたいことがあつても、何度もタイミングを逃した。でも言えたが。ファシリテーターの雑談途中の介入は凄いな。あれがファシリテーターの役目なのだろう。その後の沈黙は緊張したが、時間が流れる（話が進む）中で、雑談していた人も自然に話の中に入り、ちゃんとこういう風になるんだということが分かって安心。これが野島先生のグループなんだと、先生らしさを感じた。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度=5.5

自分は、雑談の継続にのれなくなり発言し、雑談をカット。その後は居心地よくなる。ファシリテーターとしては、A子に時々助言的発言をした。満足した点は、A子がひとしきり話してくれたことと、前セッションで発言が少なかったE子がよく発言してくれたこと。F子がいまいちのれていないか。

●第3セッション（2日目の午前）

①しばらく沈黙が続く。

②ファシリテーターが「昨日の話から年をとることを考えさせられた」と発言して沈黙を破る。するとC子が自分のことを少し語る。

③やがて「常識」「普通」ということについて話が続く。

④そのうちE子が母子関係のことを切り出し、以後「子育て」「女性の立場」をめぐる話となる。

⑤終り頃は、家庭では夫婦関係が大事だという話が出る。

〔メンバーの感想〕 魅力度=5.60 (SD=0.49)

A子：最初の話のきっかけをつくって下さり、有り難かった。ご自分がひっかかっている部分を発言者に伝えることによって、発言者が口に出して、抱えている思いみたいなものを引き出して、すごいいました。魅力度は7。／B子：とても話しやすいですし、雰囲気がとてもやわらかいです。魅力度は5。／C子：今日のように、最初何か気づいたことを言ってほしい。魅力度は5。／D男：長い沈黙の立ち上げのタイミング。魅力度は6。／E子：自分の発言に対して、振り返りさせていただいている。魅力度は5。／F子：話の中で（ある方の話）、「変になってきた。自分では変わっていない…」という内容のことを言われた時、「変になってきたということは、変わってきているのではないですか」というアドバイスが

心に響いて、私も話の中にグッと入り込めた気がした。魅力度は6。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度=6

最初、お茶等のことで落ち着かなかったこともあるが、その間沈黙が体験できた。話に皆が参加できている。途中言いたいことがあったが、やはり私にはテンポが早すぎて、タイミングを逃した。その後は、いつ言おうかと、それが気になり、話の集中が弱まった。ファシリテーターは、E子の今までの言葉を、流れの中でみて、コメントされているのが分かった。また1つ勉強になった。満足した点は、みんなが話に参加できているところ。不満なことは、言いたいことが言い出せなかったこと。次のセッションで言おうかと思うが、またそのタイミングばかり気になったら嫌だなとも思う。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度=5.5

ファシリテーターとしては、最初の沈黙破りをする。またE子に対し、少し明確化、リードの発言を行う。コ・ファシリテーターの「子どもが母にいろいろ話しているということは、それが言える関係があるのでは」とのフィードバックがいい。満足した点は、メンバーの自己開示的発言がなされていること、A子がのびのび発言しているようにみえること。少しずつ話は出ているが、グッと深まるというところまではない感じである。1つ気かりは、C子が途中から発言がなくなったこと。2.5時間、ノンストップだが、休憩を少し入れるがよいか？

●第4セッション（2日目の午後前半）

①前のセッションの続きとなる。

②それから、B子の職場の人間関係の悩みが語られ、それにA子、F子も加わり、みんなで考えている雰囲気になる。ただ、仕事を持っていないC子の発言は少ない。若いA子のパワーが目立つ。

③終り頃にD男がセクハラの話を持ち出す。

〔メンバーの感想〕 魅力度=6.00 (SD=0.82)

A子：ポイントをつけてこられるし良いと思う。魅力度は6。/B子：心の奥底が自分で少し見れた気がします。魅力度は7。/C子：良かった。(自分の意見を言われて)。魅力度は5。/D男：無記入。魅力度は6。/E子：腑に落ちます。魅力度は5。/F子：とても話しやすい雰囲気をつくって下さり、話の中でのアドバイスが心に安らぎを与えて下さった。魅力度は7。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度=5

B子は話されて本当に良かったと思った。途中からはなんだか同じ話がぐるぐる回って、スッキリ終われない感じになった。自分は、前のセッションで言いそびれたことを言った。すると、その後、力が抜けたのか、眠気が来た。しかし、いつもなら寝てしまったかもしれないが、自分は、コ・ファシリテーターだと思つて寝てはい

けないような気がして、起きていられた。A子が「このグループに参加してよかった」と最終セッションでいうようなことを言われ、驚き。展開が早いと、この段階で、もう、そういう気持ちになるんだということを知った。気かりは、次も眠くなるのでは…。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度=5.5

ファシリテーターとしては、B子に明確化、助言を少し行う。コ・ファシリテーターのE子への「自分のワクを破ろうとしているみたい」との明確化の発言はgood。満足した点は、B子がひとしきり話せたことと、A子が昨日よりさらに発言できていること。気かりは、C子の発言が殆どないこと。結構真面目にセッションが進んでいるが、息抜きをしないと少しきつくなるかな？

●第5セッション（2日目の午後後半）

①E子が夫婦、子育ての話めぐって語り、他のメンバーも夫婦関係についての話をする。約2時間あまり続く。その中でE子への否定的感情も表出される。若いA子の発言が減り、中年チームが活躍している。

②C子の夫婦、子どものことが語られる。

〔メンバーの感想〕 魅力度=6.00 (SD=1.10)

A子：グループと一緒にいる感じが多分に見えたのが、良かったと思う。魅力度は6。/B子：グループの一員として話して下さる為、とても話しやすいです。魅力度は7。/C子：無記入。魅力度は6。/D男：無記入。魅力度も無記入。/E子：自分の話を聴いていただいた時に、今がそういう時期ということを書いていただいた事で、これは今という時期ととらえる見方が持てて良かったです。魅力度は7。/F子：ファシリテーターのアドバイスの仕方が、とてもソフトで、その方の核にふれているもので、そのアドバイスを聴いているだけでも勉強になった。魅力度は4。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度=6

E子の夫婦の話それぞれの立場で話し、個人的には面白かったし、参考になった。そういう話題だったということもあって、A子が直接的ではない立場となり、中年チーム(?)が活躍してバランスがとれたか。自分は、心の流れは自然。やはりテンポの早さは感じるが。ファシリテーターは、心理士として話されるのだなあと思った。満足した点は、夫婦の話題に当事者として参加できるようになったこと。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度=5.5

グループは笑いが時々みられて、少しリラックス的になっていた。ファシリテーターとしては、E子に時々サポート的発言をした。また、C子の子どもの話では、時折助言的発言をする。満足した点は、E子に焦点があつたこと、C子が終り頃に出てきたこと。気かりは、E子のことは長時間、焦点があてられたが、あまりスキ

りしなかったか？

●第6セッション（2日目の夜）

①前のセッションの続きで子育ての話が30分間続く。

②やがてファシリテーターが、F子の「居心地の良さ」にスポットをあて、以後最後までこれをめぐるやりとりとなる。途中、何度か話がそれるのをファシリテーターがF子に焦点をあてなおす。やりとりの中で、A子は今まで若く見えるF子を若者チームとして捉えていたようだが、F子との年代や感覚の違いに気付く場面がある。

〔メンバーの感想〕 魅力度=6.20 (SD=0.75)

A子：今まで発言の少なかったメンバーに話題提供をして、思いや考えを聞いてさすがだなと思った。ただ、唐突な話題転換はそれまでの会話がどうでもよかったこと、あるいはしてはいけなかった会話なのかなと不安になった。魅力度は6。/B子：無記入。魅力度は7。/C子：話されていなかったF子さんに向けて下さったので、Fさんが少し分かったようで良かった。魅力度は5。/D男：F子さんの会話の流れに参加しないことでの、会話操作は良かったと思う。魅力度は無記入。/E子：すごく配慮されていらっしやる。魅力度は6。/F子：先生たちの一言で、自分の気持を見つめられて、また自分のはっきりしない気持を言語化してもらったことについて、とても良かった。とても話しやすい雰囲気心地良かった。魅力度は7。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度=6

ファシリテーターが、ある話題が流れていても、唐突にそれを切って、発言の少ない人に声をかけられたことには驚いた。私としては、今まで話をしてきた人に悪いようにも思ったが、全体を見るのではなく、すっかりメンバーとして入り込んでいたので、F子を気にかけておらず、その点では、はっとした。F子の話の中で、それぞれのメンバーの個性が目立ってきたような気がする。後半は自然に居れたが、その前はお手洗いに起きたかったり、寒かったりして、そのことを行動に移すタイミングが気になっていた。そして、自分では気にしていなかったが、メンバーの一人から私の発言が少ないことが気になったと言われた。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度=6

ファシリテーターとしては、F子に焦点をあてた。F子のことについて次第に見えてきた。満足した点は、F子のことをめぐるやりとりができたこと。

●第7セッション（3日目の午前）

①沈黙がしばらく続く。

②沈黙を破りファシリテーターがD男に水を向けると、D男は「ここに参加して、自分の人間関係の考え方は、他の人とそんなに変わらないことを知ることができ

た」と発言する。以後、親子関係、夫婦関係、老後の過ごし方等をめぐり、広く浅く話が続いていく。その中でA子は（昨晚、コ・ファシリテーターと個人的に長く話し込んだためか）大人しかった。全体的に打ち解け、和やかな雰囲気である。

〔メンバーの感想〕 魅力度=6.20 (SD=0.40)

A子：無記入。魅力度は6。/B子：無記入。魅力度は7。/C子：無記入。魅力度は6。/D男：沈黙の立ち上げ。魅力度は無記入。/E子：メンバーの言葉を初日から通してずっとひろっておられるので驚いています。魅力度は6。/F子：一言一言が自分に問われている気がして、先生たちの言葉にとっても関心が高まっています。魅力度は6。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度=6

自分自身、心に余裕があるなあと考えた。程よい参加ができた。先生（ファシリテーター）は先生だなあと考えた。満足した点は、自分に余裕があることに気づき、実感できたこと。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度=5.5

ファシリテーターとしては、D男に水を向け発言を促した。時々話がずれていくところを元にもどした。コ・ファシリテーターは時々フィードバックをしていた。満足した点は、話が深くということではないが、広く次々と各人が少しずつ自己開示をしていること。3日目の朝で、ずっとこれまで真面目なセッションをしてきたので、やや疲れ気味か。軽く流す形の展開になっているが、これはこれでいいと思う。

●第8セッション（3日目の午後）

①A子の将来への不安をめぐる話がなされる。

②F子が中心となりお墓をめぐると話が行われる。

③E子の男社会に対する怒りをめぐり、しばらく話し合われる。その中で、A子が「愛があれば…」と発言する場面もある。

④最後にファシリテーターからの発言（いろいろな生き方、人間関係にふれることができた等）とコ・ファシリテーターからの発言（お疲れ様でした）が行われ、終りとなる。

〔メンバーの感想〕 魅力度=6.23 (SD=0.47)

A子：担当する人によってグループは変わるということで、今回の雰囲気がものすごく良かったし、他のも受けてみたくなった。魅力度は6。/B子：一人のグループ仲間のような感じで、先生だからという異和感がなかった。魅力度は7。/C子：無記入。魅力度は6。/D男：♂の役割。魅力度は6。/E子：自分自身について怒っているというところをもう一度考えてみます。いろいろ聴いていただいて、本当に感謝しております。本当にありがとうございました。魅力度は7。/F子：先生方

が話の中で言って下さる意見で、また自分を考えていた。自分の意見がそのまま自分に返されてくる、そういう中で、自分で客観的に自分を見つめ考えられた。魅力度は6。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度=5

グループは、特にこのセッションで終わりという意識、あせりはない。ファシリテーターは、話が分からない人へ、分かりやすく伝える役割、「終わり」というけじめをつける役割を果たしていた。満足した点は、E子自身は、スッキリはしていないだろうが、何か今までには思いつかなかっただろうヒントとなることを、グループ全体で模索したこと。気がかりは、全体を振り返ることがないまま終わって現実に戻る（自分を閉じる）ことに対して、その差を個人で縮めなければいけないことへのメンバーに対する心配がある。自分は、疲れた。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度=6

ファシリテーターとしては、お墓の話についてコメント的な発言をした。また折にふれて時々発言した。コ・ファシリテーターも時々発言をしていた。満足した点は、E子がさらに話をしたこと、D男の「常識的」発言が結構いい助言になっていること。途中、笑いが入り息抜きの時も時々あったが、最後まで一貫して「真面目」なグループだった。

3. 参加後の感想

「参加者カード」に記入されたメンバーの7段階評定のグループへの満足度は平均=6.33 (SD=0.47) である。

自由記述欄には次のように書かれている。また満足度も記す。A子：グループに参加して、また一度むけることができた気がします。とても参考になったし、勉強になりました。自分を追い詰めてしまったような時もあったけれども、それはそれで良かったのではないかなと思う。今回、終えて、有意義だったと思う。いろんなことを気付けたと思うし、良かった。いろんな人と会えて良かったです。満足度は7。/B子：3日間という長い時間だと思っていましたが、終わればとても短く感じました。1セッションが2~2.5時間という時間も短く感じました。自分という自分は、今どこの位置にいるかは分かりませんが、見えてきたような感じがします。エンカウンターとは、色々なやり方、ファシリテーターによっては随分と違ってくと聞いていました。このたびは2つのグループに分かれてありましたが、もう1つのグループと比較してもかなり違い、内容によっては、自分に合う合わないということが起きると、参加したことが意義があったりなかったりすると思います。このグループに参加して、本当に良かったと思います。またファシリテーターに会える機会がありましたら、よろしくお願ひします。

ファシリテーターに会えることを期待し、また話し合えたら良いなと思っています。満足度は7。/C子=自分の家族のこと（息子、娘）について話してみても、ファシリテーターの意見を聞いて、とても勇気づけられたり、考え方を改められることがあって、とても良かったと思う。最後の方で、疲れてしまって少ししんどかった。他の人の話もとても参考になって、治らないかもしれないけれど、やってみようと思います。本当にありがとうございました。満足度は6。/D男：多くの女性に挟まれ、齢もはばからず、心をさらけ出しました。自分には特に大きな悩みがあったわけではないが、皆さんの心の中には深い傷を背負った方もおられました。それぞれの話題に肉づけがされ、実りのあるものになったのではないかな。良き経験をさせてもらいました。満足度は6。/E子：とても有意義なエンカウンターで、大変満足しています。この企画をしていただいたカウンセラー養成機関と野島先生に大変感謝しております。同時に、仲間として3日間過ごしたメンバーにもいろいろ学ぶこと、考えさせられること等、多くあり感謝しています。いい出会いを持たせていただきました。同時に人を信頼する心地良さも味わいました。3日間ありがとうございました。また、是非野島先生に当地に来ていただきたく思います。満足度は7。/F子：この3日間、とても楽しかった。初めてこのような研修会に参加して、エンカウンターというものが分かり、良かった。中でも、語ったり、自分の思いを人に伝えるのが、うまくしゃべれないこと、語彙が豊富でないの、伝えられないことで苦手だった。つつい自分の中で考え思っているだけで満足していたことが多かったので、今回こんなにも自分のことをしゃべって、しかもそんな自分に驚いています。けれども、それをすることで、今現在の自分によく分かってるようで分かんなかった自分の思いを自分で分かり、心の中が明るくなりました。先生お二人の言葉が、とても私にとって、次に進むために大きなものになったような気がします。また、このグループで出会った人達の影響もあると思いますが、この3日間はとてもいい出会いを経験させてもらいました。また私のグループの先生方と、エンカウンター研修ができればと思いました。ありがとうございました。満足度は6。

コ・ファシリテーターの満足度は5、ファシリテーターは6である。自由記述欄には次のように書かれている。コ・ファシリテーター：最初から最後まで夜のセッションをやっていたような感じ。本当にグループによってファシリテーターの個性が出るなと思った。自分の成長や余裕をもって自分に気付けて嬉しい。でもやはり疲れた。/ファシリテーター：はじめての福田さんと一緒にグループ。コ・ファシリテーターは折にふれて発言をしてくれ、コンビとしてやりやすかった。促進的な

発言も結構あった。ファシリテーターとしていいセンスと思う。自分は折にふれて自己開示をした。墓の話は初めて。他のメンバー一人一人は、それぞれの生き方をしていることがよく見えた。多様な人生模様に触れた感じ。傷ついた人はいないと思う。概ねメンバーは満足をしてくれたと思う。グループとしては、信頼感、安全感が高いグループであったと思う。ファシリテーター（私）としては、時折強くりード的に入る場面があったが、基本的にはメンバーの自発性で動いていたと思う。

IV 考 察

1. コ・ファシリテーターの満足度が低いのは何故か？

グループを終えての満足度は筆者（コ・ファシリテーター）だけが7段階評定の5（「どちらかといえば満足」）で、一番低かった。満足ではあるのだが、一人だけ、他のメンバーよりも満足度が低いことについて、考察してみる。

このグループはとても真面目で、しっかり語り合うのが特徴であり、本当にグループによって、ファシリテーターの個性が出ると思った。ファシリテーターは筆者の指導教官であり、日頃、大学で感じている空気と同じものを感じた。

筆者にとっては、最初から最後まで夜のセッションをやっているような感じだった。しかし一方で、グループが感傷的にならなかったのもこのグループの特徴だろう。セッションもスケジュールきちりであったし、セッション中の休憩時間も一度もなかった。筆者にとってはとても展開が速く、じわっと心が開いてきて、そしてゆっくりと閉じるという雰囲気ではなく、無理に広げ、急に閉じたような、そんな感じがした。ゆったりと話を味わう時間はなく、途中言いたいことが出てきても、タイミングを逃し、その後はいつ言おうかと、そればかりが気になり、話の集中が弱まった。

野島先生のファシリテーターを見て、筆者との違いを感じた。先生の率直さは、筆者にはないものであり、それがとても先生らしいと思った。そして、その率直さはやや筆者に欠けているくらいなので、いい刺激であった。先生とのタイプの違いを実感したが、筆者にとってはファシリテーターのペアとしては、自分にはないところを持っている先生と組むことでよかったように思う。

今までのグループ体験を思い出すと今回のグループでは、少し距離をおいて全体を見ることができた。それはコ・ファシリテーターという立場で参加したから当然といえば当然なのだが、自分としては力を抜き、自分のままで居れる“余裕のある自分”に気付き、嬉しかった。しかし、グループが終わって、「疲れた」ということを意識したとたんにコ・ファシリテーターを脱ぎ捨ててしまったようで、全体会では、メンバーの一人としての感

想しか言えず、逆に“余裕のなさ”を感じた。この“余裕のある自分”と“余裕のない自分”とは少し種類が違っているように思った。“余裕のある自分”はグループの経験者としての一人の自分であり、“余裕のない自分”はコ・ファシリテーターとしての役割を担った大学院生としての自分であるように思えた。

2. コ・ファシリテーターはどのような体験をしているのか？

グループの中で、コ・ファシリテーターはどのような体験をしているのであろうか？今回の事例をもとに整理してみると次のようなことがあげられよう。

①「ファシリテーター意識」の自覚：ベテランのファシリテーターと一緒にいて、始めは中途半端な立場にいたようなコ・ファシリテーターは、セッションに入ると同時に責任感が生まれたように思われる。それは、第4セッションのコ・ファシリテーターの記述に特に顕著に表れている。また、参加後にどっと疲れを感じたのもこのためであろうと思われる。

②「ファシリテーション行動」の実践と自覚：折にふれてコ・ファシリテーターはフィードバックや明確化といった「ファシリテーション行動」を実際に行ったが、これは特にコ・ファシリテーターだから（コ・ファシリテーターとして）ということを意識して行ったというわけではなく、メンバー体験をしていたから自然に行えたことのように思われる。しかしそれを「ファシリテーション行動」としてとらえることで、自らの行動が促進的働きをしていることをはっきり自覚することができた。

③ファシリテーターの行動の「観察学習」：ファシリテーターの行動を直接観察することを通して介入のタイミングやその仕方を見習うことができた。そしてファシリテーターとコ・ファシリテーターのタイプの違いを意識することができた。それは自分なりのファシリテーター観を見出していくことに役立つと思われる。

3. 「コ・ファシリテーター方式」はファシリテーター養成に有効なのか？

「コ・ファシリテーター方式」はファシリテーター養成に有効なのであろうか？今回の事例をもとに検討すると、「コ・ファシリテーター方式」では、グループにおいてファシリテーターが側に居て見守ってくれる安心感の中で、前述の3つのコ・ファシリテーター体験ができるという意味で、ファシリテーター養成に有効であると言える。

さらに「コ・ファシリテーター方式」では、セッションの前後ではファシリテーターとコ・ファシリテーターの間でグループをめぐる話し合い（ミーティング）がで

きることから、ホットな状態でグループへの心の準備を整えたり、グループでの体験を振り返ったりできるという意味で、ファシリテーター養成に有効であると言える。

引用文献

本山智敬 (2001) 臨床における訓練とは——エンカウンター・グループのファシリテーター訓練を受ける立場から, 集団精神療法, **17** (1), 12-15.

野島一彦 (1985) グループ・ファシリテーターの養成をめぐる——福人研・九大を中心として, 野島一

彦・安部恒久編, グループ・ファシリテーターの養成をめぐる——第3会日本心理臨床学会自主シンポジウム (1984年, 広島大学), 日本グループ・アプローチ研究会資料 No.1, 10-11.

野島一彦 (1990) グループ・アプローチ, 小川捷之・鎌幹八郎・本明寛編集, 臨床心理学を学ぶ, 金子書房, 194-205.

野島一彦 (2001) 臨床における訓練とは——エンカウンター・グループのファシリテーター訓練をする立場から, 集団精神療法, **17** (1), 10-12.